



2009年度助成事業

## 海の森づくり第3回こんぶサミット

**【事業名称】** 豊かな海との共生をめざして：海の森づくり こんぶサミット in  
壱岐・東京・重茂-青森・宇和島

### 【趣旨】

日本の水産業は、現在、起死回生を迫られています。その緊急かつ最大の課題は、後継者のいない沿岸漁業、特に漁村の再生です。長崎県大村市で2005年4月に開催された第1回こんぶサミットは「こんぶと海の森づくり」をテーマに400人余の参加を得て大成功裏に終わりました。また、2007年4月に中国大連・壱岐・東京で開催された第2回こんぶサミットは「環境と食育」をテーマに約300人が参加し、都市と漁村を結ぶ大きな切っ掛けをつくりました。そこで、第3回こんぶサミットは、「海との共生を目指し、環境と食育と山・川・海の健康を取り戻す里村（里海、里山、里町）づくり」をテーマとし、21世紀の循環型社会創生の旗手としての「海の森づくり運動」の骨子を社会に大きくアピールすると共に、経済性をふくめた持続可能な「海の森づくり」の健全な発展に大きく寄与したい。

### 【内容】

**目的：**「海の森づくり」とその生産物の利活用を通して、自然と共生する21世紀の循環型社会創生の旗手としての「海の森づくり運動」の重要性を広く国民にアピールすること。

**対象：**「環境と食育と山・川・海の健康を取り戻す里村（里海、里山、里町）づくり」に関心を持つ産・官・学・民の皆さん、海の森づくり推進協会会員（正会員、賛助会員、特別賛助会員、ネットワーク会員）ならびにその候補者、一般。

**入場：**招待状に代える。

**企画：**主催：海の森づくり推進協会

時期：壱岐（2009年4月23-24日）、東京（9月26-27日）、重茂-青森（11月30日—12月1日）、宇和島（2010年3月）（予定）

会場：東京海洋大学、他（予定）

**オプションツアー：**壱岐、重茂-青森、宇和島

- ① 海女の里壱岐の村おこし見学ツアー：壱岐東部漁業協同組合
- ② コンブの種苗生産地見学ツアー：岩手県重茂漁協、青森市水産指導センター
- ③ 市民ぐるみの海の森づくり見学ツアー：宇和海に緑を広げ環境を守る会

**東京：**ポスターセッション

展示：海の森づくりとその生産物の利活用  
海の森づくし試食会

東京：1日目シンポジウムⅠ（海との共生をめざした環境と食育と里村づくり）：講演とパネル討論

東京：2日目シンポジウムⅡ—海との共生を目指した東京湾の環境修復と海の森づくり—

予算規模：350万円（含現地及び参加者負担）

冊子：5,000部印刷

共催・後援：広報その他で第3回こんぶサミットを支援してくれる団体

協賛：金銭的な支援をしてくれる個人・団体が協賛金は一口5万円

広告のみ：一口1万円以上

特典：共催、後援、協賛者には当日の出展販売並びにパンフに広告の場を提供します。

実行委員：伊地知誠、宇都時義、池原宏二、石橋康弘、泉 慎也、干 宝広、浦田俊信、大野正夫、岡本強一、香川芳子、門脇秀策、木谷聖三、齊藤晃頭、齊藤 浩、齋藤慎幹夫、坂井 淳、佐野隆三、佐藤由美、渋谷正信、白石ユリ子、塩飽あけみ、高井陸雄、高橋正征、高橋 一人、陶 敏彦、中野利弘、納土伸男、能登谷正浩、浜田靖彦、原口 雅好、日和佐信子、藤野修二郎、古谷和夫、堀田健治、松田恵明、村上隆久、村田八郎、山内文男、矢澤一良

助成：日本財団

共催：東京海洋大学、壱岐東部漁業協同組合

後援：環境省、外務省、壱岐市、宇和島市、日本海藻協会、港区スポーツふれあい文化健康財団、(社)大日本水産会、(社)国際海洋科学技術協会、(社)海と渚環境美化推進機構、(社)食の安全を考えるネットワーク（FSN）、海の幸に感謝する会、東京湾の環境をよくするために行動する会、(NPO)帰宅支援ネットワーク、(NPO)地域交流センター、(NPO)ネパール・ヨードを支える会、鐵鋼スラグ協会、東京新聞(中日新聞)、(株)水産経済新聞社

後援（東京本番のみ）：東京都、港区、港区教育委員会、(NPO)NPO事業サポートセンター、

後援（壱岐ツアーのみ）：大村市

海の森づくり推進協会の特別賛助会員リスト

東成海洋開発株式会社  
NPO 教育開発研究所  
アジア植物燃料株式会社  
壱岐東部漁業協同組合  
ティビーアール（TBR）株式会社  
株式会社キミカ  
新日本製鐵株式会社  
鹿児島アクアファーム

2008年度寄付

日本農産工業株式会社（企業の社会貢献）

## 別紙 オプショナルツアー（自費参加）

### 【趣旨】

中国の海藻養殖生産は、年間 1 千万トン以上で、それが、中国近海の 1 千万トンを越える漁獲量を支えていると言われている。養殖される海藻は、日本ではたった 50 万トンである。効果的な施肥による天然の藻場の修復とともに、日本の海藻養殖生産を 10 倍以上にして、沿岸の根付水産資源を倍増したい。「一見は百聞に如かず」の諺のごとく、当「海の森づくり推進協会」が勧めている「海の森づくり」の多様な現場を出来るだけ多くの関心のある人に見て理解して戴きたい。今回のオプショナルツアーは、私達が行っている「海の森づくり」の年間サイクルの中のハイライトを抽出し、一人で全部参加するもよし、都合のつくツアーにだけ参加するもよし、日頃めったに見られない現場に「海の森づくり」に関心のある一般市民をご招待する。参加希望者は、「海の森づくり推進協会松田恵明 (Tel & Fax : 018-833-7734)」までご一報下さい。

### 【内容】

#### ① 海の森づくりモデル地区ツアー（4月23-24日 1泊2日宿泊：芦辺町）

訪問先：長崎県壱岐東部漁業協同組合（2007年4月第2回こんぶサミット開催地）

行 事：海の森づくりセミナー、モデル現場見学、海の森尽くし

見 所：離島の海の森づくり運動のモデル地域で、「蘇る海女の里」から日本の未来を考えます。

#### ② 重茂・青森ツアー（12月1-2日 1泊2日 宿泊：青森市）

訪問先：岩手県重茂漁業協同組合、青森市水産指導センター

行 事：こんぶ種苗生産現場見学

見 所：「海の森づくり推進協会」が斡旋する「こんぶ」の種糸供給先で、その種苗生産現場を見ながら、公営と民営の種苗生産に関する疑問を問い、これからの海の森づくりを考えます。

#### ③ 宇和島モデル地区ツアー（2010年3月1泊2日 宿泊：宇和島市）

訪問先：宇和海に緑を広め環境を守る会（2006年度：愛媛県三浦保環境賞特別賞受賞、2007年度愛媛県藻場づくり活動推進事業費助成適用、2008年度愛媛県経済同友会表彰）

行 事：海の森づくりセミナー、モデル現場見学

見 所：市民運動としての「海の森づくり運動」のモデル地区です。漁協、地方自治体、小・中・高校を巻き込んで、海の森づくり運動を展開している実態をみて、これからの海の森づくりを考えます。

9月26日(土) 於東京海洋大学

東京：1日目シンポジウムI

### 海との共生をめざした環境と食育と里村づくり：講演とパネル討論

【趣旨】現在、海との共生を目指した様々な取り組みが、政府主導からボランティア主導まで多様な視点からなされている。しかしながら、その関連分野も裾野が広いだけでなく、多岐にわたり、連携も弱く、必ずしも成果を挙げているとはいえない。そこで、今回は、政府主導のプログラム、海の森づくりのモデル現場、食育ならびに日本料理との関係、魚附林、藻場造成、ヨード欠乏症撲滅運動の現状と課題を網羅的に提示し、日本の国際貢献までを視野に入れて議論を展開したい。

司 会：佐藤 安紀子

基調講演：「海との共生を目指した環境と食育と山・川・海の健康を取り戻す里村（里海、里山、里町）づくり」（海の森づくり推進協会）

第1部(午前)：話題提供の部

- ① 「環境運動としての海の森づくりの現状と課題：宇和島の事例（仮題）」  
「宇和海に緑を広げ環境を守る会」会長 古谷和夫氏
- ② 「海の森づくりと海女の里村の再生：現状と課題：壱岐の事例（仮題）」  
壱岐東部漁業協同組合代表理事組合町 浦田俊信氏
- ③ 「鉄鋼スラグを利用した藻場再生試験（仮題）」  
新日鐵スラグ・セメント事業推進部部長 中川雅夫氏
- ④ 「韓国の海洋施肥事例」  
東成海洋開発株式会社社長 金 榮 燉氏
- ⑤ 「施肥の海—7年間の記録（仮題）」  
澁谷潜水工業 KK 代表取締役 澁谷正信氏
- ⑥ 「食育と海の森づくり：現状と課題（仮題）」  
女子栄養大学学長 香川芳子氏

第2部(午後)：パネル討論会：海との共生と海の森づくり：日本の国際貢献

コーディネーター：鹿児島大学名誉教授 松田恵明氏

パネリスト：講演者、話題提供者

講演1 「漁師たちの森づくりの現状と課題（仮題）」

全国漁業協同組合連合会常務 長屋信博氏

講演2 「日本の藻場造成の現状と課題（仮題）」

東京海洋大学教授 能登谷正浩氏

講演3 「ヨード欠乏症について」

ヨード欠乏症国際対策機構日本代表・東邦大学名誉教授 入江 實氏

閉会の辞 海の森づくり推進協会事務局長 藤野修二郎

懇親会

9月27日(日) 於東京海洋大学

東京：2日目シンポジウムII

—海との共生を目指した東京湾の環境修復と海の森づくり—

【趣旨】当NPO「海の森づくり推進協会」が持つ「東京ブルーベイ構想」を披露し、当協会が、「東京湾の環境を良くするために行動する会」の一員としての役割を理解するために広く、東京湾の環境修復に取り組んでいる先達の声聞き、考える機会とすることを目的とする。

司 会：佐藤 安紀子

開会の辞及び趣旨説明：東京湾ブルーベイ構想（海の森づくり推進協会）

第1部（午前）：講演の部：東京湾

- ①「沿岸域の総合的管理について」  
内閣官房総合海洋政策本部事務局内閣参事官 丹羽 行氏
- ②「東京湾の魚（仮題）」  
船橋漁業協同組合代表理事組合長 大野一敏氏
- ③「東京湾貧酸素水塊分布予測システム（ナウキャスト）の概要（仮題）」  
千葉県水産総合研究センター東京湾漁業研究所 大畑 聡氏（予定）
- ④「東京湾の再生（仮題）」  
政策研究大学院大学教授 小松正之氏
- ⑤「東京湾の環境修復と鉄鋼スラグの利用」  
JFE ミネラル株式会社代表取締役専務 林 明夫氏

第2部(午後)： パネル討論会

コーディネーター：鹿児島大学名誉教授 松田恵明氏

パネリスト：講演者、話題提供者

話題提供の部：東京湾の環境修復と海の森づくり

- ①「東京湾の環境修復（仮題）」  
元茨城大学教授・現茨城県環境アドバイザー 大嶋和雄氏
- ②「南の海でのこんぶ栽培ガイドライン（仮題）」  
高知大学名誉教授 大野 正夫氏
- ③「大規模海中林造成手法」  
境 一郎 ES(エコシステム)研究所主任 陶 敏彦氏
- ④「東京湾における大規模海中林造成計画（仮題）」  
日本大学教授 堀田健治氏

閉会の辞 海の森づくり推進協会事務局長 藤野修二郎

懇親会